

緑区散策マップ

おけはざま

# 桶狭間古戦場コース

史誌「信長公記」から読み解く永禄3年(1560)織田信長×今川義元の戦い跡をたどる(名鉄有松駅～桶狭間古戦場公園:約2.5km)

## 1 高根山(たかねやま)

桶狭間の合戦の時、今川方の先陣松井宗信軍200、この地に着陣、織田方の佐々、千秋軍と激戦が行われた。



## 2 武路釜ヶ谷(たけじかまがたに)

中筋より進撃してきた織田軍、この谷に潜み突撃の機会を窺っていた。



## 3 ヒツ塚(ななつづか)

信長は織元を討ちつた後この付近に兵を集め陣をあげ清洲に帰った。後、村人はこの東西に七つの穴を掘り戦没者を埋葬、塚として布う。



## 4 桶狭間古戦場公園(田楽坪)

今川義元討死の場所(永禄3年5月19日)。昔からこの地を田楽坪と称している。「信長公記」によると、義元討死の地は深田の傍の低地である。合戦より48年後の慶長検地は、この西側に約2町歩の本田の存在を示している。天保絵図では本田の中に田楽坪を明示している。慶長7年編の「中古治乱記」は合戦の地を田楽坪としている。

## イ、義元馬つなぎのねず

合戦の時、義元が馬をつないだ「ねず」といわれ、この木に触れると熱病に罹るとの伝承がある。



## ロ、義元の墓

百石した墓公塚があるが、その建立年は不明である。

他に義元公水汲みの泉あり



## 5 桶狭間山(おけはざまやま)

桶狭間古戦場公園の裏の道を行くと左側田圃で現在は住宅化している。150m位歩くと左へ登る道がある。登りきった頂上からは古戦場地帯が一瞥できる。この付近が「信長公記」にある「今川義元おけはざま山に人馬の息を休めこれあり」と、指し示す地である。右記の写真は、大正後期、北方の気流より撮ったものでその中央部より少々西に本陣が置かれていたようである。ここから南西を展望すると「信長公記」の「おけはざまと云うところは、はざまみて深田足入れ、高みひきみ茂り、敵所(敵備)と云ふ事取りなし」の道標が実態として想起される。



## 6 瀬名氏後陣地跡(せなうじとしじんちあと)

合戦の2日前、今川軍の先発として、瀬名氏後200、ここに着陣18日に村人を使って桶狭間山に、翌5月19日の総大将義元の軍の休息陣地を構築した。



## 7 長福寺(ちょうふくじ)

天文7年(1538)草創。西山浄土宗寺院。義元の四郎孫阿弥、主君を弔うため阿弥死如來を奉納、堂内に今川義元(左)、松井宗信(右)の本尊が安置されている。



## 8 戦評の松(せんびょうのまつ)

瀬名氏後この松の下で戦評をしたと、また巨樹の5月19日今川義元の亡霊が真夜中白装束で自刺し、大池の真面目を懸けるとの伝説がある。江戸時代これを見た刈谷の魚屋が、義元の亡霊から、他言無用と強く口留めされていたが、ついに隠されず、他人に誇らした途端熱病に罹り遂に死んでしまったという話が語り継がれている。



## 9 桶狭間神明社

(おけはざましんめいしゃ)  
桶狭間村は1340年代、南朝の落武者によって開拓されたと言ふ。神明社の創建については詳でないが慶長13年の検地で「免陸地」となっているため、1600年以前に祀られていた事は確定である。桶狭間合戦の時、瀬名氏後が御酒を供えたと言われる縁が宝物として保存されている。

